

NEWS LETTER

4/30(木)から5/7(木)まで全塾お休みです



	締切日	実施日
英検	4/28	5/30
漢検	5/13	6/13
数検	5/19	6/20

表紙・目次・お知らせ	P1	国立大学の国際化	P7
お知らせ・塾カレンダーなど	P2	WGIP・算数オリンピック解答	P8
岡山城・数検合格者	P3	後藤新平～安倍晋三	P9
英語ランゲージスクール開設	P4	首相・都知事の国語力	P10
生き物の死にざま・マウス	P5	レピュニット数・四月生まれの著名人	P11
ネコの視力・算数オリンピック	P6	五月生まれの生徒諸君・アヤメ	P12

～塾からのお知らせ～

1. 4/30(木)から5/7(木)まで全塾お休みです。

2. 塾カレンダー 4月～6月

4/19	日	休み	5/4	月	休み	5/19	火	
4/20	月		5/5	火	休み	5/20	水	
4/21	火		5/6	水	休み	5/21	木	
4/22	水		5/7	木	休み	5/22	金	
4/23	木		5/8	金		5/23	土	
4/24	金		5/9	土		5/24	日	休み
4/25	土		5/10	日	休み	5/25	月	
4/26	日	休み	5/11	月		5/26	火	
4/27	月	引落日	5/12	火		5/27	水	引落日
4/28	火		5/13	水		5/28	木	
4/29	水		5/14	木		5/29	金	
4/30	木	休み	5/15	金		5/30	土	
5/1	金	休み	5/16	土		5/31	日	休み
5/2	土	休み	5/17	日	休み	6/1	月	
5/3	日	休み	5/18	月		6/2	火	

3. 検定試験の申込締切日・実施日

	申込締切日	検定実施日
英語検定	4/28(火)	5/30(土)
漢字検定	5/13(水)	6/13(土)
数学(算数)検定	5/19(火)	6/20(土)

英語「ランゲージスクール」開設

ネイティブのレッスンで、生きた英語!! 使える英語!!

コース	対象年齢	レッスンスタイル	月謝
ゲームイングリッシュ	年中～小3	45分(週1回)×4回 映像:3回 / スカイプ:1回	6,000円(税別)
エレメンタリー	小3～小6	60分(週1回)×4回 映像:30分 / スカイプ:25分	7,000円(税別)
プレップ	小6～中3	60分(週1回)×4回 映像:30分 / スカイプ:25分	9,000円(税別)
プレップアドバンス	中2～高3	スカイプ(30分)×4or5回 ※	5,000円(税別)

※レッスン回数を自由に増やすことができます。レッスン料は、プラス2回までは1回につき500円、プラス3回以降は1回につき400円。例えば、プラス4回の場合、400円×4回=1,600円の追加料金となります。

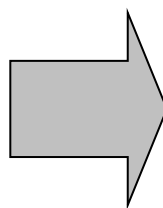
『スゴイ!!』って言われるキミになろう!!

映像

約30分

すぐに外国人の先生ではなく、まずは日本人の先生がキミに合わせてわかりやすく解説。英語を話す準備がしっかりできるから安心!!

※「エレメンタリー」と「プレップ」の場合の流れです。



スカイプ

約25分

日本人の先生と確認した英語を使って外国人の先生と英会話。スカイプで1対1のやりとり。キミのペースでゆっくりすすめるよ!!

生き物の死にざま

稲垣 栄洋

実験室で閉じる生涯

古い時代に人々は、「人間は死ぬと動物に生まれ変わる」と信じていた。輪廻転生である。

しかし、そのような古い思想に縛られるべきではないと考えたフランスの哲学者デカルトは、人間が魂を持つのに対して、動物は心を持たない単なる機械にすぎないという「動物機械論」を唱えた。そして、心を持つ人間は、動物を機械のように利用してよいと主張し、まるで機械を分解するように、イヌを麻酔することなく解剖したのである。

また、哲学者カントは、「動物に自意識がなく、単に人間のために存在する」と唱えた。

古くは旧約聖書に、神が「すべての生物を支配せよ」と人間に言われたと記されている。さらには、これらの哲学者のもっともらしい説明によって、人々は、動物を思うがままに利用できるようになった。そして、生きたままの動物を使った実験を行うことができるようになり、その後、医学や科学は著しく発展を遂げるのである。

彼らは太陽というものを見ることはない。彼らは実験室の中で生まれ、実験室で死んでゆく。

彼らというのは、実験用マウスのことである。

ミッキーマウスで知られているように、英語ではネズミのこをマウスと言う。ただし、日本では、特に実験用に飼育されているネズミがマウスと呼ばれている。

実験用のマウスは、ハツカネズミが用いられる。

ハツカネズミは、「二十日

ねずみ」である。

二十日の語源は明確

ではないが、一説

には

妊娠期間が

二十日である

ことに由来して

いると言われている。

それくらい妊娠期間が短いのだ。



ハツカネズミは一年のうちに五〜一〇回程度も妊娠を繰り返して、一回に五、六匹の子どもを産む。そして、生まれた子どもは数カ月で成熟し、妊娠する。こうして次々に増えることができるのである。まさに「ネズミ算」の言葉どおりだ。

ハツカネズミは飼育条件下では二年程度生きると言われているが、野生では数カ月しか生きられないという。何しろ、自然界にはネズミの

天敵は多い。ヘビやフクロウ、イタチ

など、さまざまな生き物がネズミ

を餌にする。そのため、食べら

れても食べられても、次々に

繁殖できるように進化してい

るのだ。

この次々に生まれ、あっという間に成長して死んでゆくという性質が、実験動物として適しているのである。

人間の行うあらゆる実験に用いられるのが、彼らの仕事である。

あるものは薬物を投入され、あるものは電気ショックを与えられ、あるものは体じゅうに電極をつけられている。

身動きが取りづらいケージに押し込められ、場合によっては動けないように拘束される。生きたまま解剖されることもある。

当然だが、安全性を確認するためのテストは、安全かどうかわからない未知のものが試される。あるものは副作用で体のあちこちが膨れ上がり、あるものは毒性のために体中の毛が抜け落ち、もたえ苦しむ。

危険性を確認するためのテストでは、致死量を明らかにしなければならぬ。死ななければ、さらに薬が与えられ、それでも死ななければ、新たな処理が行われる。そして苦しみながら死んでゆくようすが記録されていくのだ。



彼らは実験動物である。

死ぬことが彼らの仕事なのである。

実験動物はペットではない。

実験動物を取り扱うときには、一切の感情は障害となる。「かわいそう」だと思えば、実験を遂行できない。すべての感情をなくして、実験動物と向き合うことが人間には求められている。

デカルトやカントが主張したように、動物には心はないのかもしれないし、何の感情もないのかもしれない。

しかし、人間が哺乳類の一員として進化を遂げてきたと考えれば、脳が作り出す心や感情は人間だけが特別に獲得したものではなく、他の哺乳類もそれに近い心や感情を発達させていると考えることもできる。

あるいは、動物たちの思考や行動がすべて本能によるものなのだとしたら、私たち人間が抱くさまざまな感情も、結局は、本能の一種にすぎないのかもしれない。

本当のことは、誰にもわからないのだ。私たちが人類にとって、生命はあまりに謎に満ちている。命の謎を解明するためには、生命の犠牲が必要だ。

実験動物たちの犠牲によって、人間はまた一步、生命の謎に迫ることができ。そして、彼らのおかげで、新薬が開発され、人間たちはますます長生きできるようになるのである。

生きることができるようになるのである。



ネコの視力

ネコの視力は解像度において、人間の四分の一と言われています。

その代わり動体視力は抜群です。動いているものなら、小さな虫でも三十メートル先までなら、見つけることができますと言われています。

また夜行性の動物なので、明るいところよりも暗いところの方がよく見えます。人間が必要とする光量の六分の一でも、ネコはよく物が見えると言われています。

ネコは視野が広く距離感を測るのは得意ですが、赤色は見えません。

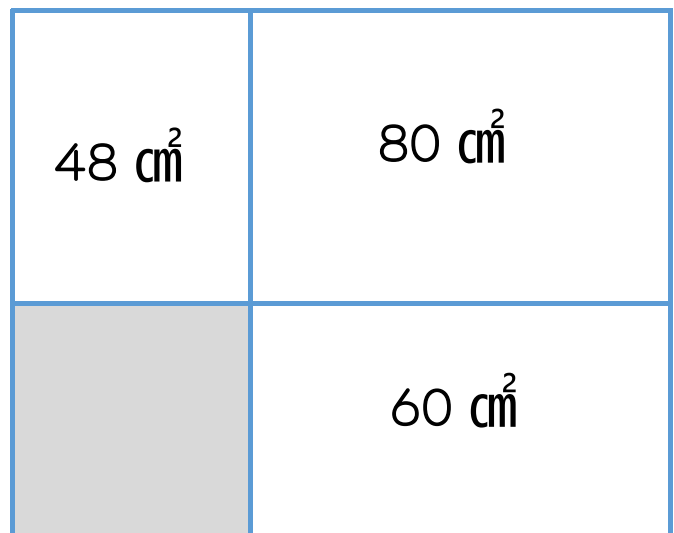


算数オリンピック

長方形を図のように4つの部分に分け、左下に正方形を作った。3つの長方形の面積がそれぞれわかっている時、正方形の面積を求めよ。



さあ、何分でとけるかな？





着実に進む国立大学の国際化

国大協が公表した第7回フォローアップ調査結果によると、2019年11月現在の受け入れ外国人留学生数（学部と大学院の合計）は4万8,483人で、前年同期に比べ1,463人増えました。総学生数に占める比率は、0.3ポイント増の8.0%です。方針策定年の同期（6.1%）から着実に増えていますが、目標値は10%ですから、20年内の達成は難しそうです。

これに対して、日本人学生の海外留学数は2018年度に3万2,828人（前年度比3,367人増）となり、13年度と比べると倍近くになりました。留学率は5.9%と、既に目標値の5.0%を突破しています。この間、若者が海外に出たがらないという「内向き志向」が指摘されながらも、少なくとも国立大学の学生に関しては、大学側が働き掛けを強めていることもあって、留学への関心が高まっているようです。

もっとも内訳を詳しく見ると、1年以上の「長期」が426人（学部229人、大学院197人）、1年未満の「短期」が3万2,402人（各2万2,087人、1万315人）と、まだまだ短期留学が主流です。

ただ、海外大学と交流協定を結ぶ大学は年々増加しています。留学先の学位も取れる「ダブル・ディグリー」などの国際共同学位プログラムの開設は、学部段階では国立でもまだ一部にとどまっていますが、今後は増えていくものと予想されます。

「英語で授業」、大学院では当たり前？

大学が教育と研究の両面で国際的な地位を確立していくには、外国人教員や、英語での授業を増やす必要があります。2019年5月現在の外国人教員数は3,076人（前年同期比105人増）で、全教員数に占める比率は4.8%にまで増えましたが、目標値の6.4%はまだまだ遠そうです。

これに対して、英語で授業を実施している大学は、学部段階で82大学のうち67大学、大学院段階で86大学（大学院大学も含む）のうち74大学を占めています。授業科目数で見ると、学部では8587科目と、目標値（2012年度の3,771科目を倍増＝7,542科目相当）を超えました。大学院では2万8,216科目と、既に目標値（同8,068科目を倍増＝1万6,136科目相当）の2倍近くになっています。大学院に進むことまで視野に入れるなら、今や英語で授業を受けられる英語力を身に付けることは必須と言えそうです。

留学の促進策として大学独自の奨学金制度を既に導入しているのは、外国人留学生向けで66大学、日本人学生向けで76大学となっています。官民を挙げて留学を支援する「トビタテ！留学JAPAN」とも相まって、更なる支援が求められます。

新型コロナウイルスの問題で留学熱が冷え込むことも心配ですが、それだけ国境を超えた人的交流が当たり前になっていることの表れでもあります。国内でも進行するグローバル化に対応できる子どもたちの育成に、力を入れたいものです。

（ベネッセ教育情報サイト 筆者：渡辺敦司）

War Guilt Information Program<2>

記事が載れば、全面的に書き換えを命じられた。

GHQの検閲は個人の手紙や電話にまで及んだ。進駐軍の残虐行為を手紙に書いたことで、逮捕された者もいる。スターリン時代のソ連ほどではなかったが、戦後の日本に言論の自由はまったくなかった。

これらの検閲を、日本語が堪能でないGHQのメンバーだけで行えたはずがない。多くの日本人協力者がいたのは公然の秘密であった。一説には4,000人の日本人が関わったといわれる。

さらにGHQは戦前に出版されていた書物を七千点以上も焚書した。

焚書とは、支配者や政府が自分たちの意に沿わぬ、あるいは都合の悪い書物を焼却することで、これは最悪の文化破壊の一つである。秦の始皇帝とナチスが行った焚書が知られているが、GHQの焚書も悪質さにおいてそれに勝るとも劣らないものであった。驚くべきは、これに抵抗する者には、警察力の行使が認められていたし、違反者には十年以下の懲役もしくは罰金という重罪が課せられていたことだ。

もちろん、この焚書にも多くの日本人協力者がいた。特に

大きく関与したのは、日本政府から協力要請を受けた東京大学の文学部だといわれている。同大学の文学部内には戦犯調査のための委員会もあった。この問題をその後マスメディアがまったく取りあげようしないのは不可解である。

検閲や焚書を含む、これらの言論弾圧は「ポツダム宣言」に違反する行為であった。「ポツダム宣言」の第十項には「言論、宗教および、思想の自由ならびに基本的人権は確立されるべきである」と記されている。つまりGHQは明白な「ポツダム宣言」違反を犯しているにもかかわらず、当時の日本人は一言の抵抗すらできなかった。

ちなみに「大東亜戦争」という言葉も使用を禁止された。GHQは「太平洋戦争」という名称を使うことを命じ、出版物に「大東亜戦争」という言葉を使えば処罰された。この検閲は七年間続いたが、この時の恐怖が国民の心の中に深く残ったためか、七十年後の現在でも、マスメディアは決して「大東亜戦争」とは表記せず、国民の多くにも「大東亜戦争」と言うのを躊躇する空気がある。いかにGHQの検閲、処罰が恐ろしかったかがわかるというものだ。

(百田尚樹「日本国紀」より)



算数オリンピック解答

図のように a, b, c とおいて考える。

ここで、

$$b \times c = 80$$

$$a \times c = 60$$

だから、

$$a \times b \times c \times c = 80 \times 60 = 4800$$

一方、

$$a \times b = 48$$

従って、

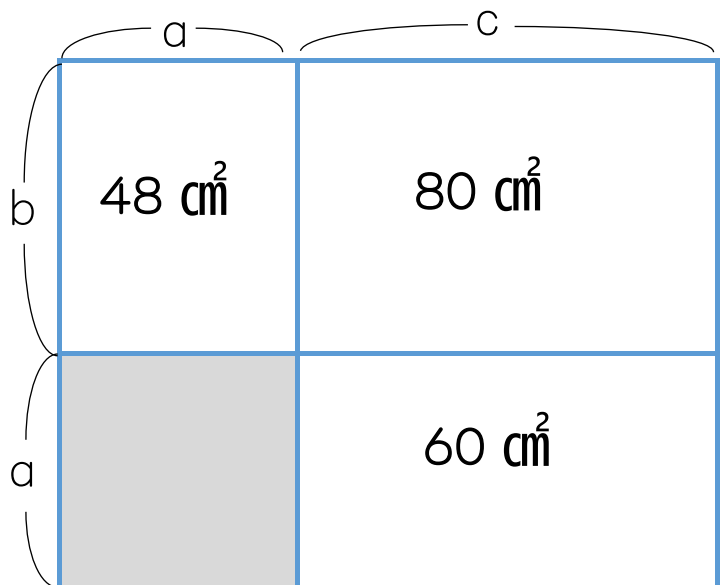
$$c \times c = 4800 \div 48 = 100$$

$$c = 10 \text{ となり、}$$

$$a \times c = 60 \text{ なので、} a = 6$$

正方形の面積は、

$$6 \text{ cm} \times 6 \text{ cm} = 36 \text{ cm}^2 \text{ となる。}$$



正解はだせた
かなあ…



後藤新平

一八五七年、仙台藩留守家の家臣後藤実崇の長男として生まれる。蘭学者高野長英は遠縁に当たる。

十七歳で福島県の医学校に入学し、のちに愛知県医学校(名古屋大学医学部の前身)の医者となる。

一八九二年、内務省衛生局長に就任するも、翌年、相馬事件に連座して失脚。

その後、陸軍軍務局長・児玉源太郎に拾い上げられ、一八九五年、日清戦争の帰還兵の検疫を業務とする臨時陸軍検疫部事務長官として官界に復帰する。

一八九八年、児玉が台湾総督となると後藤を抜擢し、彼を台湾民政局長に任命した。

そう。台湾に防疫や衛生管理を根付かせたのは後藤新平だったので。

それから百二十年

彼我の立ち位置は逆転し、大きな差がついてしまったようです。

今、安倍内閣の武漢ウイルス対策に激しい批判が寄せられている。

Too late,
Too little



〈後藤新平〉

日本で初めてコロナ感染者が出たのは一月十六日。そして、新型コロナウイルスを「指定感染症」として閣議決定したのが一月二十八日。十二日後でした。

一方台湾は、一月二十五日にはコロナを「法定認定病」と定めていました。その時点で台湾の感染者はゼロだったにもかかわらず。

国内最初の感染について厚生省は、「ヒトからヒトへの感染リスクは比較的低い」、「WHOなどのリスク評価では、持続的なヒトからヒトへの感染の明らかな証拠はない」と表明していました。証拠がないからとアクションを起こさなかった日本。可能性はゼロではないからと警戒レベルを上げた台湾。後藤新平が見たら何というでしょう。

オードリー・タン

一九八一年生まれ。台湾のIT界における「偉大な十人」の一人。IQ百八十といわれる天才。八歳の時からプログラミングを学び始め、十四歳のときに中学を中退。十九歳のとき、シリコンバレーでソフトウェア会社を起業。トランスジェンダーであると明かし、三十六歳でデジタル担当政務委員(日本の大臣に相当)として入閣。

日本では一月下旬からマスク不足が深刻でした。買占め、転売なども横行しました。台湾でもマスク不足は大問題でした。

そこでこの天才が何をやったか。

彼(彼女)は、台湾のエンジニアたちが様々なアプリを開発できるように、台湾中の薬局のマスクの在庫データをネット上に公開したのです。彼はこの作業をわずか数日でやり遂げました。

こうして「マスク在庫マップ」が完成したのです。人々はマスクを求めて無駄な行列を作ることがなくなりました。

安倍晋三

一九五四年生まれ。内閣総理大臣。父、安倍晋太郎。母方の祖父、「昭和の妖怪」と呼ばれた岸信介。盟友麻生太郎とともに、市井のことに疎く、庶民感情を理解することが苦手。愛妻家。夫人がどんなにおバカなことをしても叱ることができない。嫌いな花、桜。嫌いな食べ物、モリそば、カケそば。

業績、デフレに苦しむ日本で二回の消費税増税を強行し、国民生活をどん底に突き落とした。にもかかわらず、「景気はゆるやかに回復している」と強弁する強靱なメンタルを持っている。

安倍が放った三本の矢は、最初だけ勢いよく飛んでいたが、結局一本としての届かなかった。

コロナ対策。海外はロックダウン、日本は自粛要請。イギリスの賃金保障は八割、フランス・イタリアは十割なのに対し、日本はマスク二枚。さすが「アベノマスク」と国内のみならず海外からも失笑を買っている。ただトランプだけは、「おもしろいジョークだ」、岸田もシンゾウくらいオレを喜ばせてくれるといいのだがと漏らしたとか。

(文責・上)



首相・都知事の国語力

News ポストセブン 呉 智英

首相や小池知事の「カタカナ語濫用」の根底にあるものは何か

東京都の小池百合子知事は、カタカナ語をよく使うことで知られている。イメージ戦略をとまなう選挙では効果的だろうが、新型コロナウイルス対策のための記者会見で、老若男女、色々な人に言葉を届けるうえでどうだろうか。評論家の呉智英氏が、カタカナ語がやたら使われることの根底に何があるか、について考察する。

三月二十三日付朝日新聞夕刊の「素粒子」欄に、こうあった。「カタカナ解説に戸惑う。オーバーシュート、ロックダウン、クラスターって、何だ。」全く同感だ。このうちクラスターだけは統計学や分子科学の用語でもあるので、これを使うのはやむをえないとして、あとの二つは何でこんなカタカナ語を使うのだろう。コロナ感染者の爆発的増加を表現する言葉が必要なら、オーバーシュート（度を越す）などと言わず「爆増」とでも造語すればいいではないか。ロックダウンも、これでは岩rockが落ちてくるみたいだ。錠lockを下ろすのだから「都市封鎖」でいいだろう。

これらのカタカナ語を得意気に使ったのは小池百合子東京都知事と安倍晋三首相である。安倍首相はさらに二十七日の参院で、東京五輪を二年も長期延期すると「モメンタムが失われる」と発言している。各紙は「勢い」と説明を付けた。政治家はよほど英語が得意で、つい英語が口に出るらしい。

では、日本語はどうか。小池知事は措くとして、安倍首相の国語力は高校生以下だ。『AERA』昨年五月二十日号は、同四月三十日の先帝「退位礼正殿の儀」での安倍大失言を報じている。

「両陛下には末永くお健やかであらせられますことを願っていません」

戦前なら政権崩壊だ。緊張のあまり舌がもつれたというわけではない。「国民代表の辞」を読んだ失態である。否、読めなかったのだ。当然、文書には「願って已みません」とあった。文書を作成した高級官僚は、真逆ここに振り仮名が必要だとは思わなかったのだろう。「真逆(まさか)」なら必要かもしれないが。ああ、已(や)んぬるかな。

己・已・巳の違いは高校までに習う。「已」は「すでに」「やむ」と訓(よ)む。

音(おん)なら「い」。已然形(いぜんけい)の「い」だ。むしろ「い」と読めただけエラいので、安倍首相には部分点を進呈したくなる。

カタカナ語濫用の根底には、英語や仏・独語は高級な言語で日本語は劣った言語だという卑屈で歪んだ欧米崇拜意識がある。差別語認定された言葉をカタカナ語に言い換えるのは、その好例である。差別語認定されたらその愚を徹底的に批判してやるのが本筋だろう。同じ意味の英語に言い換えて「良い言葉でしょ」と得意がっても何の意味もない。

三月二十三日付朝日新聞は、コロナ禍で静まり返ったニューヨークをこう描く。

「警備員の男性が嘆くようにこうつぶやいた。クレージーだ」

クレージーを日本語で表現できない方がクレージーだろう。

